

# Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第117号

nanae historical  
museum collection

## ななえ古写真物語

VOL. 117

### ななえの農業史

七重官園写真帖「開墾ノ図」

明治10年頃

鳴川地区か？



農業の町ななえでは、500年ほど前から和人が入植し始め、穀類や野菜・豆などを栽培するかたわら、杣人（きこり）もかねながら、生業としていたという。

稲作は、200年ほど前に峠下地区あたりで始まったと考えられ、その後、江戸幕府による内陸部開発に重きをおいた方針により、幕府直営の開墾地である「御手作場」がおかれ、稲作に限らず、畑作や養蚕などが普及。多くの入植者により村が形成されてきた。

そして、江戸時代末期には、新たな農業を導入しようという動きになる。いわゆる近代農業（西洋式農法）の普及である。そこで、登場するのが、当時プロシア（ドイツ）から箱館に来ていたR・ガルトネルである。彼は、1866年12月に、はじめて箱館奉行だった杉浦兵庫頭と会い、箱館近郊に農場を開くことを、内々に約束していたようで、翌1867年から、農場を開くための土地獲得に向け奔走する。その過程で、七重村へ何度も足を運び、当時、幕府が運営していた七重村御薬園にも訪れているほか、自身の利益のためとして、駐日領事フォン・ブランドとともに、蝦夷地視察旅行にも行っていることが、彼の日記に記されている。

しかし、1868年に事態が急転、杉浦奉行が箱館を離れることとなり、一旦は農場の話しが頓挫するものの、その後赴任した井上石見箱館奉行と改めて協議し、七重村に開墾地を入手することとなった。だが、箱館戦争が勃発し、井上も箱館を去ることとなる。そこで改めて、五稜郭を占拠した榎本武揚らと七重村開墾条約を結び、およそ300万坪の土地を99ヵ年に渡り借り受け、ようやくガルトネルの夢が実現したのが1869年（明治2年）のことである。そして彼は、日本人へ初めて西洋式の農器械を用いて、西洋の野菜や果樹を栽培する方法を伝授する。七飯町が日本における近代農業発祥の地をうたう所以である。

1870年、明治新政府は、ガルトネル農場の存在に植民地化の恐れをいだいたため、条約を解約する動きとなり、賠償金62,500ドルを得てガルトネルは帰国。取り戻した土地を母体に、七重官園が設置され、西洋式農法を日本へ普及する役割は国が担った。上の写真にあるような開墾風景が、北海道の各所で見られるようになったのも、日本の農業史の転換期ともいえる西洋化が、ななえを舞台に展開されたからであり、その歴史の上に今の七飯町がある。

## 10月の予定

### 2日

夜の博物館第3夜は、七飯淡水実験所で「魚のからだづくり」をテーマに行いました。前半は魚の各器官がどのようにできていくのかを、順を追ってわかりやすく説明して頂きました。例えば、魚の脳は一本の管から引き伸ばしてできることや、目のお話では、ピントを合わせるためにレンズを動かすなど、興味深い内容でした。後半は顕微鏡を使い、胚や細胞の切片を観察。普段は見るできない魚の器官を見ながら、質問も多く出ました。今後お刺身や焼き魚を食べるとき、少し違った目でみるかも。と思った夜でした。



### 19日

涼やかな風が吹き始めた日、ジュニア探検クラブは、網を片手に「昆虫採集」に出掛けました。生憎のくもり空で気温も低め、採集をするには、あまり良い条件とは言えません。適度に場所を変えたりしながらも、一度見つけだすと、次々にあちらこちらから声が上がります。小さな命を見つけるには、どんな植物に集まり、樹液を出す木の条件は何かなどを知っておくことも伝えました。網を振り、捕った数を競うこども達。虫取り少年は健在です。



### 30日

七重小学校3年生の皆さんが「七飯の米づくりの歴史」を学びに来館しました。七飯の米づくりは、1804年頃、峠下地区で始まりました。北海道と本州で、米づくりの始まりに差があるのはなぜかを考え、古写真を見ながら、苗を植えるまでには、多くの作業があることを学びました。資料に触れる時間では、まず何に使った道具なのかを予想し、手に取ってその重さなどを体感してもらいました。現在と違い、馬や牛を使って作業をし、「スズメ追い」という子供の仕事もあった昔の米づくり。どんな感想を持ちましたか？



1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月 体育の日
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日 特別展CLOSE
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土 ジュニア探検クラブ・町民文化祭
29	日 第58回七飯町民文化祭・第2会場
30	月
31	火

10月の休館日はありません

#### 読書への誘い

秋の夜長に読書は最適。学習室で本の森を彷徨ってみませんか。ページを繰れば、昨日とは違う景色が待っています。



#### 編集後記 ~tawagoto~

館の前で育成しているアサガオが、咲き誇っている。夏の花という印象が強いが、歳時記によると秋の季語。時折、通りがかりの方が足を止め、ながめているのをみかけると、その労がやわらかなものへと変わる気がした。日没から10時間後に咲くという性質上、どうしても開館時には、本来の色ではない姿なのだが、それでも目を楽しませてくれることには変わりない。ともかく、奥が深いアサガオの魅力に取りつかれた夏だった。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~ 第117号

平成29年9月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp